



始めましょう

Amazon FSx for NetApp ONTAP

NetApp
February 17, 2026

目次

始めましょう	1
Amazon FSx for NetApp ONTAPについて学ぶ	1
NetApp Console	1
NetApp Consoleから FSx for ONTAPを使用する	1
機能	1
NetApp Consoleの追加機能	2
コンソールエージェントとリンクにより、FSx for ONTAPのすべての機能が利用可能になります。	2
料金	3
サポートされている地域	3
助けを得る	3
Amazon FSx for NetApp ONTAP のクイックスタート	3
FSx for ONTAPの権限を設定する	4
AWS認証情報が必要な理由	4
タスク概要	4
アカウントに手動で資格情報を追加する	5
CloudFormation を使用してアカウントに認証情報を追加する	7
FSx for ONTAPファイルシステムを作成または検出する	9
FSx for ONTAPシステムを作成する	9
FSx for ONTAPファイルシステムを作成する	10
既存の FSx for ONTAPファイルシステムを検出する	15

始めましょう

Amazon FSx for NetApp ONTAPについて学ぶ

"Amazon FSx for NetApp ONTAP"は、NetApp ONTAPストレージオペレーティングシステムを搭載したファイルシステムを起動および実行できる、完全に管理されたサービスです。FSx for ONTAPは、ネイティブAWSサービスのシンプルさ、俊敏性、セキュリティ、スケーラビリティを備え、NetAppのお客様がオンプレミスで使用するものと同じ機能、パフォーマンス、管理機能を提供します。

NetApp Console

Amazon FSx for NetApp ONTAP管理には、NetApp Consoleからアクセスできます。

NetApp Consoleは、オンプレミスとクラウド環境全体にわたるエンタープライズグレードのNetAppストレージとデータサービスの集中管理を提供します。NetAppデータサービスにアクセスして使用するには、コンソールが必要です。管理インターフェースとして、1つのインターフェースから多数のストレージリソースを管理できます。コンソール管理者は、企業内のすべてのシステムのストレージとサービスへのアクセスを制御できます。

NetApp Consoleの使用を開始するためにライセンスやサブスクリプションは必要ありません。ストレージシステムまたはNetAppデータサービスへの接続を確保するためにクラウドにコンソールエージェントを展開する必要がある場合にのみ料金が発生します。ただし、コンソールからアクセスできる一部のNetAppデータサービスは、ライセンスまたはサブスクリプションベースです。

詳細はこちら ["NetApp Console"](#)。

NetApp Consoleから FSx for ONTAPを使用する

NetApp Consoleのシステムページから、FSx for ONTAPシステムを作成および検出し、System Manager やその他のNetAppサービスを使用できます。Amazon FSx for NetApp ONTAPで実行されているFSx for ONTAPシステムとワークロードを管理する場合は、["NetApp Workload Factory"](#)。

["NetApp Consoleから FSx for ONTAPシステムを作成および検出する方法を学びます"](#)。

機能

- ストレージデバイス、ソフトウェア、またはバックアップを構成または管理する必要はありません。
- CIFS、iSCSI、NFSv3、NFSv4.xのサポート ["S3"](#)、および SMB v2.0 - v3.1.1 プロトコル。
- 利用可能な低頻度アクセス (IA) ストレージ層を使用した、低コストで事実上無制限のデータストレージ容量。
- Oracle RAC を含むレイテンシの影響を受けやすいアプリケーションで実行できるように認定されています。
- バンドル価格と従量課金制の価格を選択できます。

NetApp Consoleの追加機能

- FSx for ONTAPは、NetApp Consoleを_標準_モードで使用する場合にサポートされ、NetApp ConsoleSaaS レイヤーを活用して完全な機能を提供します。制限モードとプライベートモードはサポートされていません。

参照"[NetApp Consoleの展開モード](#)"詳細についてはこちらをご覧ください。

- 使用"[NetApp Console](#)"AWS のコンソールエージェントを使用すると、ボリュームの作成と管理、データの複製、FSx for ONTAPとNetAppクラウドサービス (NetApp Data ClassificationやNetApp Copy and Sync など) の統合を行うことができます。
- NetApp Data Classification は、人工知能 (AI) を活用したテクノロジーを使用して、データのコンテキストを理解し、FSx for ONTAPアカウント内に存在する機密データを識別するのに役立ちます。"[詳細情報](#)"。
- NetApp Copy and Syncを使用すると、クラウドまたはオンプレミスの任意のターゲットへのデータ移行を自動化できます。"[詳細情報](#)"

コンソールエージェントとリンクにより、**FSx for ONTAP**のすべての機能が利用可能になります。

コンソールエージェントとリンクにより、NetApp ConsoleとAmazon FSx for NetApp ONTAP作業環境間の接続と信頼関係が確立されます。コンソールエージェントは、クラウドまたはオンプレミスのネットワークで実行されるNetAppソフトウェアであり、リンクはAWS Lambda を使用してNetAppコードを実行します。コンソールを起動したり、FSx for ONTAPシステムを作成したりするためにコンソール エージェントまたはリンクは必要ありませんが、FSx for ONTAPの機能を最大限に活用するには、コンソール エージェントまたはリンクを使用する必要があります。

次の機能を使用するには、コンソール エージェントまたはリンクが必要です。

- プロアクティブなメンテナンス、信頼性、コストパフォーマンスの最適化を実現する FSx for ONTAPファイルシステム構成の適切なアーキテクチャの状態
- NetApp自律型ランサムウェア保護 (ARP/AI)
- FSx for ONTAPファイルシステム全体の容量の総合的な観測性が強化されました
- ボリュームとストレージ VM データのレプリケーション、管理、監視
- SMB/CIFS共有およびNFSエクスポートポリシーのプロビジョニングと管理
- FSx for ONTAPファイルシステム上の iSCSI ボリュームの管理
- カスタム保護 SLA のスナップショット ポリシーの作成と管理
- 自動容量管理のためのiノード管理の強化
- 弾力的なスケーリングのためのボリューム自動拡張
- クローンの作成と管理により、即時にその場でデータクローンを作成できます。
- ONTAPのバージョンなど、ONTAPから直接追加のメトリックを表示する

コンソール エージェントとリンクの詳細と、それらをいつ使用すべきかについては、以下を参照してください。

- "[コンソールエージェントの詳細](#)"。
- "[リンクについてさらに詳しく](#)"。

料金

FSx for ONTAPアカウントは、NetAppではなく AWS によって管理されます。参照 ["Amazon FSx for NetApp ONTAP入門ガイド"](#)。

AWS のコンソールエージェントまたはリンク、およびNetApp Data ClassificationやNetApp Copy and Syncなどのオプションのデータサービスの使用には、追加コストがかかります。

サポートされている地域

"サポートされている Amazon リージョンを表示します。"

助けを得る

Amazon FSx for NetApp ONTAPは、AWS ファーストパーティソリューションです。FSx for ONTAPファイルシステム、インフラストラクチャ、またはこのサービスを使用したソリューションに関連する質問や技術サポートの問題については、AWS マネジメントコンソールのサポートセンターを使用して AWS にサポートケースを開いてください。「FSx for ONTAP」サービスと適切なカテゴリを選択します。AWS サポートケースを作成するために必要な残りの情報を提供します。

NetApp ConsoleまたはNetAppストレージソリューションとサービスに固有の一般的なサポート問題およびテクニカルサポート問題については、NetApp組織レベルのシリアル番号を使用してNetAppサポート チケットを開くことができます。必要となるのは["NetApp組織を登録する"](#)サポートを有効にします。

Amazon FSx for NetApp ONTAP のクイックスタート

認証情報を追加し、コンソールエージェントまたはリンクを作成し、ファイルシステムを作成または検出することで、NetApp ConsoleでAmazon FSx for NetApp ONTAPの使用を開始します。

1

"資格情報と権限を追加する"

FSx for ONTAPファイルシステムの作成と管理に必要な権限をNetApp Consoleに付与するには、AWS 認証情報を追加する必要があります。_読み取り専用_権限と_読み取り/書き込み_権限のどちらかを選択できます。

2

オプション: コンソールエージェントまたはリンクを作成する

NetApp Consoleから一部の管理タスクを実行するには、コンソール エージェントまたはNetAppワークロードリンクが必要です。コンソール エージェント は、FSx for ONTAPファイル システムを管理するために VPC にデプロイする仮想マシンです。 *link* は AWS Lambda を活用して、FSx for ONTAPファイルシステムとの信頼関係と接続を作成します。

- ["FSx for ONTAP管理にコンソール エージェントまたはリンクが必要な場合について説明します。"](#)
- ["AWS でコンソールエージェントを作成する方法を学ぶ"](#)
- ["オンプレミスでコンソールエージェントを作成する方法を学ぶ"](#)
- ["リンクを作成する方法を学ぶ"](#)

"FSx for ONTAPシステムを作成または検出する"

NetApp Consoleから FSx for ONTAPファイルシステムを直接作成するか、AWS 環境ですでに作成してあるファイルシステムを検出します。

FSx for ONTAPの権限を設定する

FSx for ONTAPファイルシステムを作成または管理するには、NetApp Consoleから FSx for ONTAPシステムを作成するために必要な権限を付与する IAM ロールの ARN を指定して、NetApp Consoleに AWS 認証情報を追加する必要があります。

AWS認証情報が必要な理由

NetApp Consoleから FSx for ONTAPシステムを作成および管理するには、AWS 認証情報が必要です。新しい AWS 認証情報を作成したり、既存の組織に AWS 認証情報を追加したりできます。認証情報は、NetApp Consoleから AWS クラウド環境内のリソースとプロセスを管理するために必要な権限を提供します。

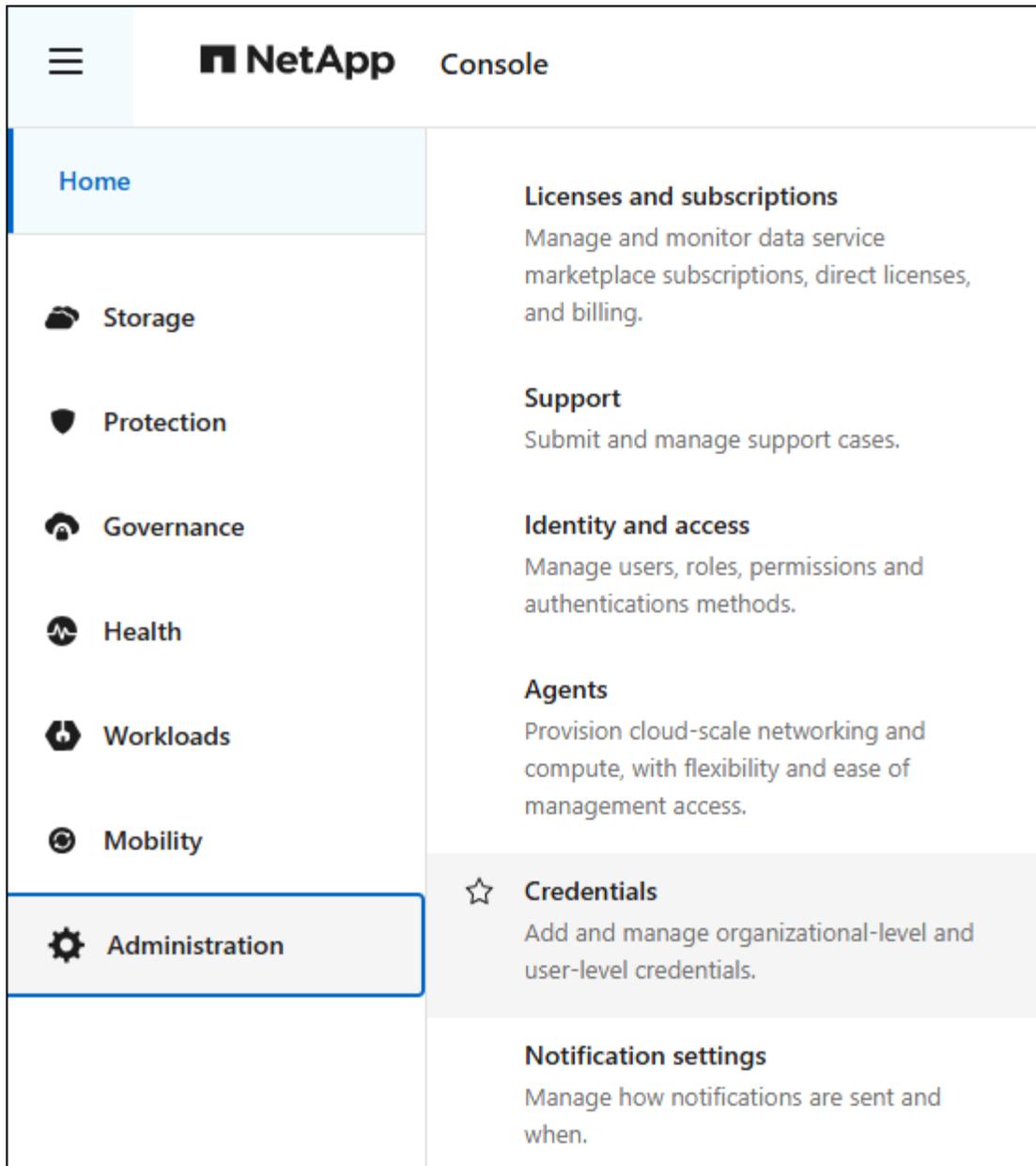
資格情報と権限はNetApp Workload Factoryを介して管理されます。Workload Factory は、Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを使用してユーザーがワークロードを最適化できるように設計されたライフサイクル管理プラットフォームです。NetApp Consoleは、Workload Factory と同じ AWS 認証情報と権限のセットを使用します。

Workload Factory インターフェースは、FSx for ONTAPユーザーに、ストレージ、VMware、データベース、GenAI などのワークロード機能を有効にし、ワークロードの権限を選択するオプションを提供します。Storage は Workload Factory のストレージ管理機能であり、FSx for ONTAPファイル システムを作成および管理するために有効にして認証情報を追加する必要がある唯一の機能です。

タスク概要

Workload Factory のストレージから FSx for ONTAPの新しい認証情報を追加する場合は、付与する権限ポリシーを決定する必要があります。FSx for ONTAPファイルシステムなどの AWS リソースを検出するには、表示、計画、および分析 の権限が必要です。FSx for ONTAPファイル システムをデプロイするには、ファイルシステムの作成および削除 権限が必要です。権限がなくても、FSx for ONTAPの基本的な操作を実行できます。["権限について詳しくはこちら"](#)。

新しい AWS 認証情報と既存の AWS 認証情報は、認証情報 ページの管理メニューから表示できます。



資格情報を追加するには、次の 2 つの方法があります。

- 手動: Workload Factory で認証情報を追加しながら、AWS アカウントに IAM ポリシーと IAM ロールを作成します。
- 自動: 権限に関する最小限の情報を取得し、CloudFormation スタックを使用して認証情報の IAM ポリシーとロールを作成します。

アカウントに手動で資格情報を追加する

AWS 認証情報を NetApp Console に手動で追加して、独自のワークロードを実行するために使用する AWS リソースを管理するために必要な権限をアカウントに付与できます。追加する認証情報の各セットには、使用するワークロード機能に基づく 1 つ以上の IAM ポリシーと、アカウントに割り当てられた IAM ロールが含まれます。

資格情報の作成には 3 つの部分があります。

- 使用するサービスと権限レベルを選択し、AWS マネジメントコンソールから IAM ポリシーを作成します。
- AWS マネジメントコンソールから IAM ロールを作成します。
- NetApp Consoleのワークロードから、名前を入力し、資格情報を追加します。

FSx for ONTAP作業環境を作成または管理するには、FSx for ONTAP作業環境の作成に必要な権限をワークロードに付与する IAM ロールの ARN を指定して、NetApp Consoleでワークロードに AWS 認証情報を追加する必要があります。

開始する前に

AWS アカウントにログインするには認証情報が必要です。

手順

1. NetApp Consoleメニューから、管理 を選択し、次に 資格情報 を選択します。
2. *組織の資格情報*ページから、*資格情報の追加*を選択します。
3. **Amazon Web Services、FSx for ONTAP**、*次へ*の順に選択します。

現在、NetAppワークロードの 資格情報の追加 ページが表示されています。

4. *手動で追加*を選択し、以下の手順に従って_権限設定_の下の3つのセクションに入力します。

ステップ1: ストレージ機能を選択し、IAMポリシーを作成する

このセクションでは、これらの資格情報の一部として管理するストレージ機能と、ストレージに対して有効にするアクセス許可を選択します。データベース、GenAI、VMware などの他のワークロードを選択することもできます。選択が完了したら、選択したワークロードごとにポリシーのアクセス許可を Codebox からコピーし、AWS アカウント内の AWS マネジメントコンソールに追加してポリシーを作成する必要があります。

手順

1. ポリシーの作成 セクションで、これらの資格情報に含める各ワークロード機能を有効にします。ストレージを有効にして、ファイルシステムを作成および管理します。

後から追加機能を追加できるので、現在展開および管理するワークロードを選択するだけです。

2. 権限ポリシーを選択できるワークロード機能の場合は、これらの資格情報で使用できる権限のタイプを選択します。"[権限について学ぶ](#)"。
3. オプション: ワークロード操作を完了するために必要な AWS アカウント権限があるかどうかを確認するには、[自動権限チェックを有効にする]を選択します。チェックを有効にすると、`iam:SimulatePrincipalPolicy permission`許可ポリシーに従ってください。この権限の目的は、権限の確認のみです。資格情報を追加した後で権限を削除できますが、部分的に成功した操作のリソース作成を防ぎ、必要な手動のリソースクリーンアップを省くために、権限を保持しておくことをお勧めします。
4. Codebox ウィンドウで、最初の IAM ポリシーの権限をコピーします。
5. 別のブラウザウィンドウを開き、AWS マネジメントコンソールで AWS アカウントにログインします。
6. IAM サービスを開き、ポリシー > ポリシーの作成 を選択します。
7. ファイルの種類として JSON を選択し、手順 3 でコピーした権限を貼り付けて、[次へ] を選択します。
8. ポリシーの名前を入力し、「ポリシーの作成」を選択します。

- 手順 1 で複数のワークロード機能を選択した場合は、これらの手順を繰り返して、ワークロード権限のセットごとにポリシーを作成します。

ステップ2: ポリシーを使用するIAMロールを作成する

このセクションでは、作成した権限とポリシーを含む、Workload Factory が引き受ける IAM ロールを設定します。

手順

- AWS マネジメントコンソールで、*ロール > ロールの作成*を選択します。
- *信頼されたエンティティタイプ*で、*AWS アカウント*を選択します。
 - 別の **AWS** アカウント を選択し、ワークロード ユーザー インターフェイスから FSx for ONTAP ワークロード管理のアカウント ID をコピーして貼り付けます。
 - 必須の外部 ID を選択し、ワークロード ユーザー インターフェイスから外部 ID をコピーして貼り付けます。
- *次へ*を選択します。
- [アクセス許可ポリシー] セクションで、以前に定義したすべてのポリシーを選択し、[次へ] を選択します。
- ロールの名前を入力し、「ロールの作成」を選択します。
- ロール ARN をコピーします。
- ワークロードの認証情報の追加ページに戻り、*ロールの作成*セクションを展開して、ロール ARN フィールドに ARN を貼り付けます。

ステップ3: 名前を入力して資格情報を追加する

最後のステップは、ワークロードの資格情報の名前を入力することです。

手順

- ワークロードの資格情報の追加ページで、*資格情報の名前*を展開します。
- これらの資格情報に使用する名前を入力します。
- 資格情報を作成するには、[追加] を選択します。

結果

資格情報が作成され、「資格情報」ページで表示できるようになります。FSx for ONTAP 作業環境を作成するときに、資格情報を使用できるようになりました。必要に応じて、資格情報の名前を変更したり、NetApp Console から資格情報を削除したりできます。

CloudFormation を使用してアカウントに認証情報を追加する

使用するワークロード機能を選択し、AWS アカウントで AWS CloudFormation スタックを起動することで、AWS CloudFormation スタックを使用してワークロードに AWS 認証情報を追加できます。CloudFormation は、選択したワークロード機能に基づいて IAM ポリシーと IAM ロールを作成します。

開始する前に

- AWS アカウントにログインするには認証情報が必要です。

- CloudFormation スタックを使用して認証情報を追加する場合は、AWS アカウントに次の権限が必要です。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "cloudformation:CreateStack",
        "cloudformation:UpdateStack",
        "cloudformation>DeleteStack",
        "cloudformation:DescribeStacks",
        "cloudformation:DescribeStackEvents",
        "cloudformation:DescribeChangeSet",
        "cloudformation:ExecuteChangeSet",
        "cloudformation:ListStacks",
        "cloudformation:ListStackResources",
        "cloudformation:GetTemplate",
        "cloudformation:ValidateTemplate",
        "lambda:InvokeFunction",
        "iam:PassRole",
        "iam:CreateRole",
        "iam:UpdateAssumeRolePolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:CreateServiceLinkedRole"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

手順

1. NetApp Consoleメニューから、管理 を選択し、次に 資格情報 を選択します。
2. *資格情報の追加*を選択します。
3. **Amazon Web Services、FSx for ONTAP**、*次へ*の順に選択します。

現在、NetAppワークロードの 資格情報の追加 ページが表示されています。

4. *AWS CloudFormation 経由で追加*を選択します。
5. ポリシーの作成 で、これらの資格情報に含める各ワークロード機能を有効にし、各ワークロードのアクセス許可レベルを選択します。

後から追加機能を追加できるので、現在展開および管理するワークロードを選択するだけです。

6. オプション: ワークロード操作を完了するために必要な AWS アカウント権限があるかどうかを確認するには、[自動権限チェックを有効にする] を選択します。チェックを有効にすると、`iam:SimulatePrincipalPolicy` 権限ポリシーに従って権限を設定します。この権限の目的は、権限の確認のみです。資格情報を追加した後で権限を削除できますが、部分的に成功した操作のリソース作成を防ぎ、必要な手動のリソースクリーンアップを省くために、権限を保持しておくことをお勧めします。
7. *資格情報名*の下に、これらの資格情報に使用する名前を入力します。
8. AWS CloudFormation からの認証情報を追加します。
 - a. 追加 (または **CloudFormation** にリダイレクト) を選択すると、CloudFormation にリダイレクト ページが表示されます。
 - b. AWS でシングルサインオン (SSO) を使用する場合は、別のブラウザタブを開いて AWS コンソールにログインしてから、[続行] を選択してください。

FSx for ONTAPファイルシステムが存在する AWS アカウントにログインする必要があります。
 - c. 「CloudFormation にリダイレクト」 ページから「続行」を選択します。
 - d. [クイックスタック作成] ページの [機能] で、[*AWS CloudFormation によって IAM リソースが作成される場合があることを承認します] を選択します。
 - e. *スタックを作成*を選択します。
 - f. メイン メニューから 管理 > 資格情報 ページに戻り、新しい資格情報が処理中であるか、または追加されたことを確認します。

結果

資格情報が作成され、「資格情報」ページで表示できるようになります。FSx for ONTAP作業環境を作成するときに、資格情報を使用できるようになりました。必要に応じて、資格情報の名前を変更したり、NetApp Consoleから資格情報を削除したりできます。

FSx for ONTAPファイルシステムを作成または検出する

NetApp Consoleからボリュームと追加のデータ サービスを追加および管理するには、FSx for ONTAPファイル システムを作成または検出します。

FSx for ONTAPシステムを作成する

最初のステップは、FSx for ONTAPファイル システムを作成することです。AWSマネジメントコンソールでFSx for ONTAPファイルシステムをすでに作成している場合は、"[NetApp Consoleを使用して検出する](#)"。

タスク概要

ファイル システムを作成すると、ストレージ VM が作成されます。

開始する前に

FSx for ONTAPファイルシステムを作成する前に、次のものがが必要です。

- FSx for ONTAPファイルシステムを作成するために必要な権限を Workload Factory に付与する IAM ロールの ARN。"[AWSアカウントに権限を付与する方法を学ぶ](#)"。
- FSx for ONTAPインスタンスを作成するリージョンと VPC 情報。

FSx for ONTAPファイルシステムを作成する

クイック作成 または 高度な作成 を使用して、FSx for ONTAPファイル システムを作成できます。Codeboxで利用可能な REST API、CloudFormation、Terraform などのツールも使用できます。["Codebox を使って自動化する方法を学ぶ"](#)。



CodeboxからTerraformを使用する場合、コピーまたはダウンロードしたコードは`fsxadmin`そして`vsadmin`パスワード。コードを実行するときにパスワードを再入力する必要があります。

クイック作成

クイック作成を使用すると、推奨されるベスト プラクティス構成を使用できます。 FSx for ONTAPファイルシステムを作成した後、ほとんどの設定を変更できます。

手順

1. NetApp Consoleメニューから、ストレージ を選択し、次に 管理 を選択します。
2. システム ページから システムの追加 を選択します。
3. 場所として **Amazon Web Services** を選択し、Amazon FSx for NetApp ONTAPの 新規追加 を選択します。
4. FSx for ONTAPファイル システムの作成ページで、*クイック作成*を選択します。

保存した構成を読み込むこともできます。

5. ファイル システムの一般構成で、次の内容を入力します。
 - a. **AWS** 認証情報: Workload Factory に AWS 認証情報を追加するか、認証情報なしで続行するかを選択します。
 - b. ファイルシステム名: ファイルシステムの名前を入力します。
 - c. リージョンと **VPC**: ファイル システムのリージョンと VPC を選択します。
 - d. 展開タイプ: 展開タイプを選択します。

- 単一可用性ゾーン (Single-AZ) 展開: ハードウェア障害を監視し、障害発生時にインフラストラクチャ コンポーネントを自動的に交換することで可用性を提供します。コンポーネント障害からデータを保護するために、アベイラビリティゾーン内でデータを自動的に複製することで、高い耐久性を実現します。

この構成は、高パフォーマンスのワークロード、またはワークロードが小さく開始して 72 GB/秒のスループットと 240 万 IOPS まで段階的にスケールアウトする場合に推奨されます。

- 複数のアベイラビリティゾーン (マルチ AZ) 配置: アベイラビリティゾーンが利用できない場合でも、データの継続的な可用性を提供します。マルチ AZ ファイル システムは、共有ONTAPファイル データに対する高可用性を必要とし、アベイラビリティ ゾーン全体にわたる組み込みレプリケーションを備えたストレージを必要とする、ビジネス クリティカルな本番ワークロード向けに設計されています。

この単一の HA ペア構成は、最大 6 GB/秒のスループットまたは 200,000 IOPS を必要とするワークロードに推奨されます。

- e. タグ: オプションで、最大 50 個のタグを追加できます。
6. ファイル システムの詳細 で、次の情報を入力します。
 - a. **SSD** ストレージ容量: ストレージ容量を入力し、ストレージ容量の単位を選択します。
 - 第 1 世代の展開では、ファイル システムの作成後に容量を減らすことはできません。
 - 第 2 世代の展開では、ファイル システムの作成後に容量を増やすことができます。
 - b. * ONTAP認証情報*: オプション。ONTAPユーザー名とパスワードを入力します。パスワードは今すぐ設定することも、後で設定することもできます。

指定したユーザーが fsxadmin ユーザーではなく、後で fsxadmin パスワードをリセットする必要がある場合は、AWS コンソールからこれを行うことができます。

- c. **SMB/CIFS** セットアップ: オプション。SMB/CIFS プロトコルを使用してボリュームにアクセスする場合は、ファイル システムの作成時にストレージ VM の Active Directory を構成する必要があります。このファイル システム用に作成されたストレージ VM の次の詳細を指定します。

- i. 参加する **Active Directory** ドメイン: Active Directory の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
- ii. **DNS IP** アドレス: 最大 3 つの DNS IP アドレスをカンマで区切って入力します。
- iii. **SMB** サーバー **NetBIOS** 名: ストレージ VM 用に作成する Active Directory コンピュータ オブジェクトの SMB サーバー NetBIOS 名を入力します。これは、Active Directory 内のこのストレージ VM の名前です。
- iv. ユーザー名: 既存の Active Directory 内のサービス アカウントのユーザー名を入力します。

ドメインのプレフィックスまたはサフィックスを含めないでください。のために
EXAMPLE\ADMIN、使用 ADMIN。

- v. パスワード: サービス アカウントのパスワードを入力します。
- vi. 組織単位: オプションで、FSx for ONTAPのコンピュータ アカウントを作成する組織単位の名前を入力します。OU は、ファイル システムに参加する組織単位の識別パス名です。
- vii. 委任された管理者グループ: オプションで、ファイル システムを管理できる Active Directory 内のグループの名前を入力します。

AWS Managed Microsoft AD を使用している場合は、AWS Delegated FSx Administrators、AWS Delegated Administrators、または OU への委任された権限を持つカスタムグループなどのグループを指定する必要があります。

自己管理型 AD に参加する場合は、AD 内のグループの名前を使用します。デフォルトのグループは Domain Admins。

7. *概要*を開いて、定義した構成を確認します。必要に応じて、ファイル システムを保存または作成する前に、この時点で設定を変更できます。
8. ファイル システムを保存または作成します。

結果

ファイルシステムを作成した場合、新しい FSx for ONTAP構成が [システム] ページに表示されます。

FSx for ONTAPファイルシステムは、NetApp Consoleのワークロード、ONTAP System Manager、AWS CloudFormation など、いくつかの方法で管理できます。。"[FSx for ONTAPファイルシステムを管理する](#)"。

高度な作成

詳細作成では、可用性、セキュリティ、バックアップ、メンテナンスなどのすべての構成オプションを設定します。

手順

1. NetApp Consoleメニューから、ストレージ を選択し、次に 管理 を選択します。

2. システム ページから システムの追加 を選択します。
3. 場所として **Amazon Web Services** を選択し、Amazon FSx for NetApp ONTAPの 新規追加 を選択します。
4. FSx for ONTAPファイル システムの作成ページで、*高度な作成*を選択します。

保存した構成を読み込むこともできます。

5. ファイル システムの一般構成で、次の内容を入力します。
 - a. **AWS** 認証情報: Workload Factory に AWS 認証情報を追加するか、認証情報なしで続行するかを選択します。
 - b. ファイルシステム名: ファイルシステムの名前を入力します。
 - c. リージョンと **VPC**: ファイル システムのリージョンと VPC を選択します。
 - d. 展開タイプ: 展開タイプとファイル システムの世代を選択します。第 2 世代のファイル システムを利用できるかどうかは、選択したリージョンによって異なります。選択したリージョンが第 2 世代の FSx for ONTAPファイルシステムをサポートしていない場合、デプロイメント タイプは第 1 世代に切り替わります。
 - 単一可用性ゾーン (Single-AZ) 展開: ハードウェア障害を監視し、障害発生時にインフラストラクチャ コンポーネントを自動的に交換することで可用性を提供します。コンポーネント障害からデータを保護するために、アベイラビリティゾーン内でデータを自動的に複製することで、高い耐久性を実現します。

ファイルシステムの生成: 次のいずれかを選択します。

- 第 2 世代: この構成は、高パフォーマンスのワークロード、またはワークロードが小さく開始して 72 GB/秒のスループットと 240 万 IOPS まで段階的にスケールアウトする場合に推奨されます。
- 第 1 世代: この構成は、最大 4 GB/秒または 160,000 IOPS を必要とするワークロードに最適です。第一世代のファイルシステムでは容量を増やすことはできません。
- 複数のアベイラビリティゾーン (マルチ AZ) 配置: アベイラビリティゾーンが利用できない場合でも、データの継続的な可用性を提供します。マルチ AZ ファイル システムは、共有 ONTAP ファイル データに対する高可用性を必要とし、アベイラビリティ ゾーン全体にわたる組み込みレプリケーションを備えたストレージを必要とする、ビジネス クリティカルな本番ワークロード向けに設計されています。

ファイルシステムの生成: 次のいずれかを選択します。

- 第 2 世代: この単一の HA ペア構成は、最大 6 GB/秒のスループットまたは 200,000 IOPS を必要とするワークロードに推奨されます。マルチ AZ および第 2 世代のファイル システムでは、ワークロードの需要に合わせて容量を増減できます。
 - 第 1 世代: この構成は、最大 4 GB/秒または 160,000 IOPS を必要とするワークロードに最適です。第一世代のファイルシステムでは容量を増やすことはできません。
- e. タグ: オプションで、最大 50 個のタグを追加できます。
6. ファイル システムの詳細で、次の情報を入力します。
 - a. **SSD** ストレージ容量: ストレージ容量を入力し、ストレージ容量の単位を選択します。
 - 第 1 世代の展開では、ファイル システムの作成後に容量を減らすことはできません。

- 第 2 世代の展開では、容量を調整できます。
- b. **HA** ペアあたりのスループット容量: HA ペアの数あたりのスループット容量を選択します。第 1 世代のファイル システムは 1 つの HA ペアのみをサポートします。
- c. プロビジョニングされた **IOPS**: 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 自動: 自動の場合、作成された GiB ごとに 3 IOPS が追加されます。
 - ユーザープロビジョニング: ユーザープロビジョニングの場合は、IOPS 値を入力します。
- d. * ONTAP 認証情報*: オプション。ONTAP ユーザー名とパスワードを入力します。パスワードは今すぐ設定することも、後で設定することもできます。

指定したユーザーが fsxadmin ユーザーではなく、後で fsxadmin パスワードをリセットする必要がある場合は、AWS コンソールからこれを行うことができます。

- e. ストレージ **VM** 資格情報: オプション。ユーザー名を入力してください。パスワードはこのファイル システムに固有のものにすることも、ONTAP 認証情報に入力したのと同じパスワードを使用することもできます。パスワードは今すぐ設定することも、後で設定することもできます。
- f. **SMB/CIFS** セットアップ: オプション。SMB/CIFS プロトコルを使用してボリュームにアクセスする場合は、ファイル システムの作成時にストレージ VM の Active Directory を構成する必要があります。このファイル システム用に作成されたストレージ VM の次の詳細を指定します。
 - i. 参加する **Active Directory** ドメイン: Active Directory の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
 - ii. **DNS IP** アドレス: 最大 3 つの DNS IP アドレスをカンマで区切って入力します。
 - iii. **SMB** サーバー **NetBIOS** 名: ストレージ VM 用に作成する Active Directory コンピュータ オブジェクトの SMB サーバー NetBIOS 名を入力します。これは、Active Directory 内のこのストレージ VM の名前です。
 - iv. ユーザー名: 既存の Active Directory 内のサービス アカウントのユーザー名を入力します。

ドメインのプレフィックスまたはサフィックスを含めないでください。のために
EXAMPLE\ADMIN、使用 ADMIN。
 - v. パスワード: サービス アカウントのパスワードを入力します。
 - vi. 組織単位: オプションで、FSx for ONTAP のコンピュータ アカウントを作成する組織単位の名前を入力します。OU は、ファイル システムに参加する組織単位の識別パス名です。
 - vii. 委任された管理者グループ: オプションで、ファイル システムを管理できる Active Directory 内のグループの名前を入力します。

AWS Managed Microsoft AD を使用している場合は、AWS Delegated FSx Administrators、AWS Delegated Administrators、または OU への委任された権限を持つカスタムグループなどのグループを指定する必要があります。

自己管理型 AD に参加する場合は、AD 内のグループの名前を使用します。デフォルトのグループは Domain Admins。

7. [ネットワークとセキュリティ] で、次の情報を入力します。

- a. セキュリティ グループ: セキュリティ グループを作成するか、既存のセキュリティ グループを使用します。

新しいセキュリティグループについては、[セキュリティグループの詳細](#) セキュリティ グループのプロトコル、ポート、およびロールの説明。

- b. 可用性ゾーン: 可用性ゾーンとサブネットを選択します。
 - クラスター構成ノード 1 の場合: 可用性ゾーンとサブネットを選択します。
 - クラスター構成ノード 2 の場合: 可用性ゾーンとサブネットを選択します。
 - c. **VPC ルート テーブル**: ボリュームへのクライアント アクセスを有効にするには、VPC ルート テーブルを選択します。
 - d. エンドポイント **IP アドレス範囲**: **VPC** 外のフローティング **IP アドレス範囲** を選択するか、**IP アドレス範囲**を入力して IP アドレス範囲を入力します。
 - e. 暗号化: ドロップダウンから暗号化キー名を選択します。
8. 「バックアップとメンテナンス」で、次の情報を入力します。
- a. **FSx for ONTAP**バックアップ: 毎日の自動バックアップはデフォルトで有効になっています。必要に応じて無効にします。
 - i. 自動バックアップの保持期間: 自動バックアップを保持する日数を入力します。
 - ii. 毎日の自動バックアップ ウィンドウ: 指定なし (毎日のバックアップの開始時刻が自動的に選択されます) または 毎日のバックアップの開始時刻を選択 のいずれかを選択し、開始時刻を指定します。
 - b. 週次メンテナンス ウィンドウ: 指定なし (週次メンテナンス ウィンドウの開始時刻が自動的に選択されます) または **30** 分間の週次メンテナンス ウィンドウの開始時刻を選択 のいずれかを選択し、開始時刻を指定します。
9. ファイル システムを保存または作成します。。結果

ファイルシステムを作成した場合、新しい FSx for ONTAP構成が [システム] ページに表示されます。

FSx for ONTAPファイルシステムは、NetApp Consoleのワークロード、ONTAP System Manager、AWS CloudFormation など、いくつかの方法で管理できます。。"[FSx for ONTAPファイルシステムを管理する](#)"。

既存の FSx for ONTAP ファイルシステムを検出する

以前にNetApp Consoleで AWS 認証情報を指定している場合は、[Discoverable systems]ページから FSx for ONTAPファイルシステムを自動的に検出できます。利用可能なデータ サービスを確認することもできます。

タスク概要

FSx for ONTAPファイル システムはアカウント内で 1 回だけ検出し、1 つのワークスペースに接続できます。ファイル システムは後で削除して、別のワークスペースに再度関連付けることができます。

手順

1. NetApp Consoleメニューから、ストレージ、管理、*Discoverable systems*の順に選択します。
2. 検出された FSx for ONTAPファイル システムの数が表示されます。*Discover*を選択します。
3. 1 つまたは複数のファイル システムを選択し、[検出] を選択して、それらをシステム ページに追加します。



- 名前のないクラスターを選択した場合は、クラスターの名前を入力するプロンプトが表示されます。
- コンソールから FSx for ONTAPファイル システムを管理するために必要な認証情報を持たないクラスターを選択した場合は、必要な権限を持つ認証情報を選択するように求めるプロンプトが表示されます。
- 次のリージョンは検出がサポートされていません: 中国リージョン、GovCloud (米国) リージョン、Secret Cloud、Top Secret Cloud。

結果

コンソールの「システム」ページに、検出された FSx for ONTAPファイル システムが表示されます。FSx for ONTAPファイルシステムは、NetApp Consoleのワークロード、ONTAP System Manager、AWS CloudFormation など、いくつかの方法で管理できます。。 ["FSx for ONTAPファイルシステムを管理する"](#)。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。